

四万十町子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成 30 年 2 月 2 日（金） 18 時 30 分～20 時 10 分

場 所：四万十町農村環境改善センター 第 1 会議室

出席委員：林瑞穂、西谷典生、山本康雄、細川理香、中城美和、山本恵美、佐竹悦子、
田内佳子、長谷部菜穂子、高橋知佐、森本英和、宮脇克佳

欠席委員：なし

事 務 局：西田尚子、伊藤悠人

健康福祉課：吉岡範満

○会議次第

1. 開会及び挨拶
2. 委員（会長及び副会長）の選出について
3. 議事
 - （1）子ども・子育て支援事業計画進捗状況について
 - （2）その他
4. その他
5. 閉会

○会議議事録

1. 開会 事務局
2. 挨拶 生涯学習課長
3. 委員（会長及び副会長）の選出について
会長を生涯学習課長の林瑞穂氏、副会長を保護者代表の森本英和氏とする旨、全会一致で決定。
4. 議題
 - 議題 子ども・子育て支援事業計画進捗状況について
まず、本日の会議録を要旨とするか、一言一句記載する議事録とするのか意見を求めた。要旨として会議録作成することが全会一致で決定され、続いて、子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について事務局（西田）及び健康福祉課（吉岡）から説明を行う。

□意見交換審議

- 会 長 主に生涯学習課、健康福祉課とこの計画の事業を担っている部門からの報告。これ以外にも、それぞれの課において子育てに関する支援も行っているところだが、これらについての意見を求めます。
- 委 員 乳幼児の検診等、受診率が上がってきているが、何か仕掛けをしている部分があるか。
- 事務局 未受診者の把握、受診の呼びかけ等を常に行っているところ。
- 委 員 病児保育について、難しい部分があるかと思うがどのようになっているか。
- 事務局 様々な事例等見ているが、一般的には病院の小児科で保育をするイメージ。様々な病気があり複数の部屋も必要となり、看護師を雇用し保育所で行おうとすると厳しい部分がある。ただ、具合が悪くなった子どもをお迎えまで見る体制はそれぞれ行っている。
- 委 員 現状以上の延長保育について要望はあるか。
- 事務局 現実として、保育士不足の中でこれ以上のローテーションが組めない問題がある。今以上の保育士を確保することも難しく、時間を延ばせば伸ばすほど通常保育に影響が出てしまう。
- 委 員 今できる一杯の対応は、それぞれ行ってもらっている状況かと思う。
- 委 員 出生が増加している部分もみて、数年先を見据えた保育士の採用なども検討してもらいたい。
- 委 員 平成30年度から新たな保育指針のもと運営を行っていかなければならない。福祉、教育の部分が強く言われており、小学校への接続カリキュラム、保護者への子育て支援など、今までもそうであったが、これまで以上に保育所としての役割が大きくなってくる。
- 委 員 小児科、産科医療について今後どのようにしていくのか。医療の面が充実しておれば、子育ての面でも安心できると思うが。
- 事務局 医師をこちらに呼ぶ事が難しい部分もある。ただ、町内病院において小児科については週2で、産科は無いが婦人科も週1で行っている。また、消防とも急なお産に対応するための連絡体制などで動いているところ。
- 委 員 黒潮町では在宅育児手当を実施している記事を見たが、子育て面でも、保育士不足に対応するにも、四万十町ではそのような話はないか。
- 事務局 話は出ているが、四万十町は出産祝金の制度を行っており、さらに手当を拡大していくのか検討は必要。また、四万十町は1、2歳児でも既に保育所入所率がそれなりに高いことや、0歳児であれば3人で1人の保育士が必要だが、これが1人であっても1人保育士が必要となるので、保育士の必要数としてはなかなか減らない現実もある。
- 委 員 町として、保育士を増やすにあたって定員のようなものはあるのか。

事務局 教育委員会としては、一定の増員も要望しているところ。今後の需要に対して慎重にならざるを得ない部分もあるが、年齢構成の偏りも考えて採用は行わなければならない。

委員 保育士さんにも家庭があるので、そこも考えてもらいたい。自分の知り合いにも、こちらに採用が無いため他の町へ流れていった方もいる。そういう流れになると保育所も役場も困ることになるのでは。

事務局 コンスタントに採用が無いと、あるかないか分からないでは臨時さんも残ってくれなくなる。それについては十分考えていく必要がある。

委員 出産祝金 30 万円とか、子育て家庭への支援は大きなものがあると思うが、それを保育士の処遇にあてるとか、そのような方策も検討するべきではないかと思う。

委員 今年度の臨時賃金引上げにより、臨時保育士の離職を止められた部分もある。資格を持っているが保育士として仕事をしていない方もいると思うので、そういった方の掘り起こしも必要。

会長 それでは、続いて議題その他に移りたい。事務局から準備資料について説明をお願いします。

□議題 その他

ファミリーサポートセンターについて、制度の内容や県内の取組事例等を事務局（西田）から説明。

□意見交換審議

会長 保育所や子育て支援センターで全てを賄えない部分を補完するような制度となる。これについての意見を求めます。

委員 多くのケースでは社会福祉協議会が行っているのか。

事務局 そのような形で行っている自治体が多い。社会福祉協議会はボランティア等の人脈があるので、取り掛かるうえで適していると考えられる。

委員 依頼が多くあったとしても、援助会員が確保できるのか心配な面もあるのではないか。

事務局 援助会員となれそうな方も一定はいると思われるが、町域が広いという事もネックにはなっていないかと考える。

委員 両親が共働きで保育所へのお迎えが難しい日について、実家へお願いする等が困難な方にとっては助かる制度と思う。

委員 もしこの制度が始まれば、自分は援助会員を前向きに考えている。援助する側は不安もあると思うので、それを取り払ってあげる方策も考える必要がある。

委員 援助会員が保育所へお迎えに行くといった場合、チャイルドシートが必要

となるのではないか。

事務局 まだ具体の細かな部分の話になっているわけではないが、必ずそういった課題は出てこようかと思う。

委員 近くに頼れる人がいない家庭には安心できる制度かと思う。自分も援助側の思いもあり、退職保育士等も含め援助会員になれる資質を持った人はいるはず。

委員 ファミリーサポートセンターは須崎市でも検討中との事。また、県外では以前から取り組んでいる自治体もあり、四万十町もぜひ前向きに検討して頂きたい。

5. その他

会長 その他については何かありませんか。無いようであれば、本日の会議はこれで終了とします。貴重なご意見も頂いたので、今後反映していけるよう取り組んでいきたいと思えます。本日はありがとうございました。

以上